

# NJ素流協 News

令和6年7月10日

第234号

令和6年7月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)  
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <https://www.soryukyo.or.jp>

## ノースジャパン素材流通協同組合 令和6年度地区別組合員会議開催

NJ素流協は令和6年度地区別組合員会議を開催しました(各会場の出席者数は表のとおり)。

20日の八幡平会場の開会にあたり、鈴木理事長が次のとおり挨拶しました。

令和6年度 地区別組合員会議出席組合員数

会場	出席組合員数	出席人数
6/20 八幡平市	20	25
6/28 久慈市	14	16
7/2 住田町	25	31
7/5 七戸町	17	31
7/9 大館市	6	6
7/11 大崎市	10	12
計	92	121

「たいへんお忙しい中お越しいただきありがとうございます。さて、総会も無事終わりました。今年度の方針が決まったところでございます。なるべく皆様と、きめ細かな意思疎通を図りたいとの思いで組合員会議

を毎年開催しております。皆様からいろいろなご意見を伺いたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。」



鈴木理事長挨拶(八幡平会場)

### 1. 話題提供

#### 「令和6年度地区別組合員会議

#### 今年度の話題」

#### ▼令和6年度NJ素流協基本方針

1. A材からD材までのすべてを活用する
2. 組合員ファーストを理念とする
3. ギブ・アンド・ギブに徹する
4. 売り手良し、買い手良し、地域

良し、丸太良し

以上が、今年度の基本的方針です。もっと砕いて言うと、「組合員の丸太

が売れなかったら買い手を探し、売り先とコミュニケーションをとる、

「丸太が不足して買い手の要望を満たせなかったら、いち早く情報を流

し、組合員の協力を得る」ということで実施していきたいです。

それでは次に、具体的な話をしていきます。

▼Q 景気が悪く、木材需要の大半を占める新設住宅着工戸数が落ち続けたら、丸太の需要が大きく下がり、丸太は売れないのではないかと?

A 木材需要のうち、国産材比率は、製材50%、合板50%、広葉樹パルプ10%、針葉樹パルプ50%です。需要が下がったとしても、国産材比率がアップすれば、国産材丸太の需要量は増加します。

また、一般建築物のS造、RC造が木造に切り替われば、住宅需要よりはるかに効果は高いです。

例として、老人福祉施設木造1棟分11戸建て住宅60戸分に匹敵します。

▼今年度の木材需給キーワード

- ✓ 円安
- ✓ インバウンド急増
- ✓ ウッドショック後の保険
- ✓ ロシア・ウクライナ問題
- ✓ 花粉症対策国交省方針
- ✓ 林業・木材産業への外国人労働力
- ✓ EU脱プラスチック法
- ✓ 輸送業界2024年問題

▼Q 今年度、東北地域で注目する点は？

A 工場の新增設、災害後の復活に注目！実は今年度は、工場の新增設が多くなっている、丸太消費量が増えることが期待されます。とりわけ、合板集成材のB材工場の存在は非常に大きく、火災で操業が止まっていたところの復活も期待したいところです。

バイオマス発電所の設立を計画中のところもあります。まだまだバイオマス用材が不足していますが、この状況に加えて、新工場設立計画が出ています。

東北の主なC/D材工場立地の配置図を見ると、新設が計画されている立地は、ほとんど内陸部に集中していることが分かります。沿岸部にある工場は、PKSやペレット等を入力して発電するため、海岸立地が多い傾向にありました。そのため、内陸に立地しているところは国産材を使うことを想定しているといえます。丸太を集める範囲の優位性は、内陸の方が高いのがポイントです。



組合員会議の様子(久慈会場)

▼Q 国産材需要の動きの見通しは？

A1 大きなポイントは住宅供給者の国産材利用率公表です。これは、スギ花粉症対策の中で国交省が打ち

出した施策です。この流れを受けて、大手住宅メーカーを中心に、木造軸組を増やしたり、木材利用へ進出する動きが出ています。特に、サッシは、鉄と木の熱伝導率が3600倍違います。ということは、いくら冷暖房をつけても、アルミサッシでは、熱が逃げる・入ってくるので、エネルギー消費量が減らないのがポイントです。

政府資料の、花粉症対策に関する全体像の中には、「スギ材の需要拡大」として、

- 国産材を活用した住宅に係る表示の仕組みの構築
- 建築物に係るライフサイクルカーボンの評価方法の構築
- 住宅生産者による花粉症対策取組の見える化

…と書いています。

最後の見える化についての具体例が「国産木材活用住宅ラベル」です。国産木材・地域産木材を多く活用している住宅である旨を表示できます。また、国産材使用量に応じて、国産

木材活用レベルとして3段階の☆で表示し、スギの使用量がどのくらいかも表示できる仕組みです。たぶん国産材を使っているところはこれらの表示を大きく打ち出すことができ、他メーカーとの比較材料になるので、住宅メーカーは今後、国産材化を加速させると予測します。

A2 大手ゼネコンが、林野庁・国交省・環境省と木材利用協定締結を結ぶ動きがあります。国と協定を結んだ限りは、その実績を公表しなければならぬ義務があるため、このことが大きな需要に結びつくのではないかと思っています。

A3 円安、ウッドショック、ロシア・ウクライナ問題から国産材代替の動きを期待します。

【円安の観点から】

●広葉樹用材は、引き続き需要大  
円安の影響で海外から輸入すると30%値上がりするというので、広葉樹業界は北米・ヨーロッパからの製材品が入ってこないのを、引き続き、国産広葉樹の引き合いは高くなります。

●輸入チップ高値のため、製紙業界は国産材チップ確保へ

製紙業界のチップの比率は、針葉樹が50%に対し、国産広葉樹は10%ほどしかありません。海外の輸入チップが高くなると、国産チップを確保する動きが出ます。

●PKSが暴騰し、代替として熱量の高い広葉樹・カラマツ・アカマツの需要が拡大

PKSの値段は一時期暴騰しましたが、昨年は少し下がりました。なぜかという、産地証明のないPKSを昨年度以内に消化しなければならず、大量に在庫を持っていたところはその処分をしていたためです。今後は、産地証明のついたPKSでないと輸入して使えないので、冬場のバイオマス工場は非常に厳しくなります。熱量の高い広葉樹・カラマツ・アカマツの需要が拡大することになると思います。

【円安、ウッドショックの観点から】

●ディメンションランバー  
保険をかけなければならぬと焦っているのがディメンションランバー

です。2×4、2×6、2×8、2×10、また、2・5m、5mの需要も大きいですが、2・5で製材するとその端材が使えないので、3mで要望を出し、ディメンションの分だけ50cm出す方向に向かう製材所も非常に増えると思います。

●集成用管柱…WW↓スギ

●集成用梁桁…RW↓カラマツまたはLVL

●ロシアアカマツ小割↓アカマツ、スギ小割

…へと移っていくと思います。

【円安、ウッドショック、ロシア・ウクライナ問題の観点から】

合板・LVLのフェイスバック、ロシア単板、米マツ↓カラマツへの移行が始まり、3×6板の一般的なサイズの合板以外も変化が生じると思います。ロシア単板の今年度の入荷見通しは全く無いといっているでしょう。

【合法性問題の観点から】

クリーンウッド法が拡充され、東南アジアから輸入してきた枕木・トラックボディー・デッキ材等の南洋

材堅木(アピトン等)の証明書が出せないということでクリ・ヒバ・圧縮スギに需要がシフトせざるを得ない状況にあります。

▼Q 今年度樹材種ごとの見通しと、それ以外に必要なものは？

A 以下の通り

◇スギ  
・合板工場の減産が続いたとしても、スギ4m、3mの需要は増大します。実は、先ほど述べた工場の新増設はすべてスギ材工場です。

・大型工場で4m、3mが採材中心となると3・65mが不足する可能性は大きいです。ただし、2mは、専門工場が少なく、荷余りの可能性があります。

◇カラマツ  
・ロシア単板輸入再開の見通しが立たず、需要は安定します。

・「強度が高い」との評価は、合板とLVL、ラミナも同じです。

・杭材需要も災害復旧で根強く、バイオ用の評価も更に明るい見通しです。

◇アカマツ

・現状通りの見通しです。

◇広葉樹

・用材、パルプ材とも高値安定へ

◇低質材  
・バイオマス新増設続き、円安もあり、製紙用チップ不足が続くと思われます。D材活用を活発にしなければ！

★特別に必要なもの

- ・スギ高齡級材…80(70)年生上
- ・カラマツ、スギ杭材…7〜13cm (特に3m)
- ・アカマツ…3m
- ・スギ…3m、3・65m
- ・菌床用おが粉(クリ・ケヤキ除き)
- ・サクラ燻製用
- ・薪材(ナラ・広葉樹込・アカマツ)
- ・合板用特定寸法…2・15m、2・6m、2・9m、3・1m(チップ用材1・5m以上に変更?)

東北県内で需給を完結させるのは難しいため、ノースジャパンとしては、各県のあらゆるところでコミュニケーションをとりながらやっていきたいと考えています。

## 情報提供コーナー

### ▼労災保険料が引き下げ!!

引き下げとなる木材産業の加入保険料率は次のとおりです。

- ・林業 60% ↓ 52%
- ・木材又は木製品製造業 14% ↓ 13%

※単位は千分率(%)

なお、一人親方等の林業、運輸事業は変更ありません。

### ▼軽油引取税の課税免除について

軽油引取税は課税免除の特例措置により免税が認められています。免税対象となる機械は以下の通りです。

- 林業者等：製材機、集材機、積込機、可搬式チップ製造機
- 木材加工業者：フォークリフト、フォークローダ、ショベルローダ、クレーン

この特例措置の期限が3年延長(令和9年3月31日まで)されました。

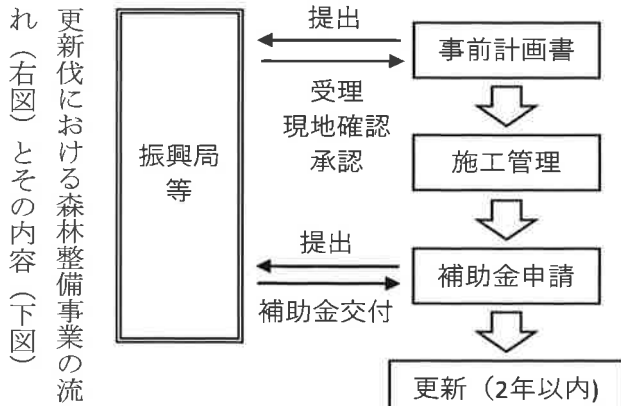
さらなる延長に向けて、積極的に制度を利用しましょう!!

### ▼手形等期間の短縮について

約束手形は、2026年目途に廃止になる方向で進んでいます。その流れで、今年の11月以降、交付満期日まで60日を超えるものは行政指導の対象となります。約束手形・電子記録債権、一括決済方式を利用している方はご注意ください!

### ▼更新伐補助について

更新伐とは、木材を生産しながら樹種転換を図るものです。



### ▼ナラ枯れ被害状況 岩手・秋田

ナラ枯れ被害がどんどん北上! 岩手と秋田の被害図を見ると、毎年被害地域が拡大していることが分かります。被害に遭いやすく、値段も高いナラの老齢木が枯れる前に、手当てをしておく必要があります。

広葉樹天然林の伐採(樹種転換)でも、補助金を活用することができます!

事業種目	A 人工林整理伐	B 天然林整理伐
対象森林	森林経営計画等において主伐が計画されている人工林	森林経営計画等において主伐が計画されている天然林
対象林齢	林齢90年生まで	
面積要件	・1 補助金交付申請において、面積5ha以上、平均材積 10m <sup>3</sup> /ha以上の搬出集積とすること ・1 箇所当たりの施行面積は0.1ha以上とすること	
補助の対象	伐倒経費および搬出集積経費(フォワーダを含む)	
補助金見込み額	標準単価 × 補助率68% × 査定係数170 (保険料率による)	
注意点	更新伐の実施前に、更新伐対象地にある立木を第三者に売り払うことはできない	

### ▼森林整備関係事業(非公共)の集材・地拵えに係る補助金について

「集材・地拵え」と「植栽」を異なるものが行う場合でも以下のパターンで補助金を申請することができます。

パターン①…「集材・地拵え」と「植栽」を異なる2者が行い、どちらかが事業実施主体となり補助金を申請

パターン②…1者が「集材・地拵え」の作業を行い、事業主体となり、補助金を申請。その際の植栽は、他者に請け負わせる

集材するときに綺麗にD材を出せば、地拵え経費を減らすことができます。こうした形でD材活用をしつつ、造林経費の削減に努めることが重要なポイントです

分からないことは関係各所やN J素流協へお問い合わせください



## 2. 令和6年度事業計画

詳しい内容は先月号の特集をご覧ください。

### 3. 令和6年度主要事業

#### ア. 共同販売事業と木材需給動向

##### ▼木材関連ニュース

①中国木材が農林・経産省と協定  
中国木材は国内に6か所、国産材の製材工場を持っています。年間原木消費量は約270万<sup>3</sup>mに達している、国産材の消費量も多いです。5月13日に結んだ協定締結にあたっては、この国産材消費量を5年にかけてさらに増やしていく目標を設定しました。

こういった形で、国産材の使用率を伸ばそうという工場が増えていて、新工場も増えている状況にあるため、丸太消費率・国産材利用も増えていくことが期待されます。  
②製材用、合板用原木引き合いが弱まる、スギが値下がり

東北の国産材原木市況は、スギが全般に値下がりしています。スギ製材品荷動きは春になっても回復感が

見られず、合板工場の生産調整に伴う原木受け入れ制限が続くなか、限られた需要を巡り県境をまたいだ供給が増えて需給が緩み、価格の地域差が縮小しています。

#### ▼まずはご相談ください！

スギ・カラマツ立木が細すぎる、スギが太すぎる、何の樹種か分からない、土埋木が出てきた：等なんでもご相談ください。フォトソリューションでの相談もご活用ください！！



組員会議の様子(住田会場)

#### イ. 森林再生、技術指導と調査研究

##### 情報提供に関する事業

##### ▼再生基金による再造林の推進

岩手県森林再生基金事業の令和5

年度協力金総額は26.6百万円で、岩手県に関係する当組員のうち102名が協定を行っています。再造林助成金の交付額は約2400万円、前年比65.8%となりました。

当組は、青森県の「青い森づくり推進基金」に対しても再造林協力の拠出を行っています。

##### ▼漆採り原木を探しています

漆採り用の原木は、太さ20cm程度ものが利用されます。20〜30本まとまって生えていると、効率的な漆採りができます。立木のみまで約2千円/本の価格で取引されます。

国産漆は、日本の文化や歴史を支える素材であり、平成30年から文化庁の方針として国宝や重要文化財などの修理・修復には必ず使用することとされました。

国産漆の主力は「浄法寺漆」となっていますが、地域外であっても国産漆へのニーズは全く変わりません。まとまったウルシ林がありましたら、漆掻き職人を紹介しますので、情報提供をお願いします。

##### ▼伐採・搬出・再造林作業ガイドラ

## イン

令和4年6月27日に、伐採搬出・再造林ガイドライン全国連絡会議が設立され、毎年「伐採搬出・再造林ガイドラインサミット」を開催して、森林資源の循環利用、再造林の担い手対策、ガイドラインの遵守について、全国からの参加者による意見交換が行われています。昨年度は福島県で開催され、今年度は長崎で開催予定となっています。参加希望の方はご連絡ください。

森林の伐採にかかわる業界として、主伐後の再造林率を上げるために、関係者の意識醸成を図りつつ、今後も見込んで参ります。

##### ▼森林経営管理法第36条に基づく林業経営体(意欲と能力のある林業経営体)の認定状況

東北各県で公募と認定が進んでいます。国の補助を受けやすくなる等のメリットがあり、組員の認定申請をサポートしていきます。

##### ▼鳥獣害拡大防止のためのシカ等の出没情報の収集に関する取組

シカの目撃情報の登録にご協力願

ます。「シカ情報マップ」で検索し、ホームページにアクセスすると必要事項が入力できます。

▼山火事予防について

①火入れ

森林又はその周囲1kmの範囲内で立木竹、雑草、堆積物等を面的に焼く「火入れ」は、市町村長の許可が必要！火入れは、地拵え・開墾準備、害虫駆除・焼き畑・牧草の改良に限って許可を受けることができます。

②野焼き

枯草や廃棄物を焼却する野焼きは原則禁止！

③たき火

たき火、その他日常生活を営む上で通常行われる軽微なものであっても、消防署へ「火災とまぎらわしい発煙の届け出」が必要です。

許可や届け出をしても、強風時及び乾燥時には、たき火、火入れ、野焼きをしてはいけません。

野外での火の取り扱いには十分注意しましょう!!

▼再造林促進奨励事業

組合員による再造林を促進するた

め、再造林経費の一部を助成する再造林促進奨励事業を引き続き行います。

▼いわて林業アカデミー就業体験

研修生を採用する考えがあり、就業体験研修の受け入れに協力いただける事業体を随時募集します。お問い合わせは経営企画課 野田までお願いいたします。



組合員会議の様子(七戸会場)

▼林業用種子(カラマツ)の確保協力

カラマツ種子の不足に対応するため、カラマツ球果採取と種子の提供に引き続き取り組みます。種子の採

種期間は9月1日〜中旬までと適期が短く、6月中旬頃から実がなるので、綺麗な緑色の球果があったら情報提供をお願いいたします。

▼原木トラック運送効率化

令和6年度も、東北地区原木トラック運送協議会と連携し、要望陳情活動を継続的にを行います。

とりわけ、荷崩れ・過積載が問題視されているため、そういった課題をどうしていくか意見交換を積極的に行いました。

▼研修会等の実施

・今年度中に、「第2回QGIS勉強会」、「海外視察研修」を計画しています。

・組合員の役職員等が自らの技術・知識の向上を目的として研修会に参加した場合や外部講師を招聘して社内研修を実施した場合等に費用の一部を助成します。

・伐木等機械の運転業務、走行集材機械の運転業務、簡易架線集材装置等の運転業務の3区分について、林災防各県支部で開催する特別教育講習会を定員漏れ等により受講できない

い組合員が多数いる場合にN J素流協として特別教育を開催します。実施する場合は12月後半の予定です。

▼労働安全衛生について

例年、チェーンソーによる伐木作業中の災害が多発しています。現場において安全衛生の取り組みを引き続きお願いいたします。

▼青年部会について

現在会員数は正会員27名、賛助会員16名で、新規会員を継続募集しています。会員の知識・技術向上を図る研修や交流事業等の取り組みを行います。

今年も、ノースジャパン素材流通協同組合青年部会が主催する林業普及啓発イベント「第4回げんき森林(モリ)モリフェスティバル」を開催します。詳しくはHPをご覧ください。

**【日時】**  
令和6年7月28日(日)  
10時00分〜15時30分

**【会場】**  
岩手県岩手市の森(八幡平市)

# トピックス

## NJ素流協青年部会 第6回通常総会を開催 〜役員改選がありました〜

NJ素流協青年部会は、6月15日、第6回通常総会を盛岡市で開催し、会員24名が出席しました。

開会にあたり、青年部会設立以来、会長を務めてきた横澤孝志会長が「当青年部会も令和元年に設立して5年が経ちます。5年を振り返ると、いきなり新型コロナウイルスの感染拡大が起こり、何ができるのかという時に、行動制限があるなかで「げんき森林モリフェステイバル」を開催することができました。このイベントを通じて会員が協力し絆を深めることができたと思います。本総会を持って会長を退任しますが、今後も楽しく活動していければ良いと思います。5年間ありがとうございました。」と挨拶しました。

令和6年度事業計画、青年部会

規約変更について原案どおり承認されました。また、任期の満了による役員改選が行われ、新役員9名が別表のとおり選任されました。総会開催前には、7月28日に開催する『第4回げんき森林(モリ)モリフェステイバル』の事前説明会を行い、開催に向けて活発な意見交換が行われました。

表 NJ素流協青年部会 役員名簿(令和6~7年度)

No.	役職名	氏名(敬称略)	所 属
1	会 長	松 田 格	有限会社松田林業
2	副会長	白 鳥 公	有限会社白鳥運送
3		野 邑 真 路	有限会社道又林業
4	幹 事	山 田 龍太郎	有限会社山一木材
5		山 中 崇 義	山中林業
6		砂子澤 元	有限会社砂子澤林業
7		室 野 貴 史	株式会社宝栄運輸
8		天 間 陸	上北木材
9	監 事	波 紫 慎太郎	十和田燐寸軸木株式会社

## NJ素流協での事業者 認定研修が終了しました

NJ素流協で行っている、「合法性・

持続可能性の証明、間伐材の確認及び発電利用に供する木質バイオマスの証明に係る事業者認定」について、認定更新者及び新規認定申請者のための研修を実施し、138事業者147名が受講しました。

受講された皆様お疲れさまでした！

## 木曽地域カラマツ利活用 先進地視察を受け入れました

カラマツの主伐期を迎えた長野県木曽町が、新規事業として「木の産業づくり事業」を立ち上げ、原木の流通、地域内での木材への付加価値を高める取り組みを始めています。

その一環として、カラマツ材の有効利用先進地である岩手県が視察先に選ばれ、6月17〜18日にかけて視察研修が行われました。

木曽町町長、森林管理署や県・町ほか関係者12名が視察に参加し、当組合から鈴木理事長と営業企画部職員2名が同行しました。

視察1日目は、当組合員のカラマツ伐採現場及び再造林現場の視

察を行い、2日目は製材工場を訪問し、製材機械・製材工程・製品の販売についての説明と、工場内の見学等の案内を行いました。



伐採現場(写真右)と工場内(写真左)視察の様子

**2024年問題についての  
企画会議に理事長が参加！**  
 ↳先進事例を調査していきます！

鈴木理事長は、林野庁の補助事業の受託として株式会社日本林業調査会が主催する「原木・製品運搬効率化等促進事業」企画委員会の嘱託委員に就任し、6月27日に行われた第1回企画会議では、座長として出席しました。

この事業は、2024年問題に対応して原木や木材製品等の運搬効率化に取り組んでいる先進事例等を調査し、今後の取り組み方向等を取りまとめて周知することを目的としています。今後も3〜4回の企画会議の実施が予定されています。

**お知らせ**

**伐採届デジタル化の事例紹介**  
 ↳電子申請できるところが  
 増えています!!

今、林業DX化の一環として、林業関係書類をオンラインでやり取りできるようになることが期待されています。

東北においても、伐採届を役所まで持参することなく、メールで提出できる市町村がありますので一例をご紹介します。

●岩手県盛岡市

事前連絡は必須ではありませんが、「伐採届の提出について」等分りやすい件名でメール送信をお願いしたいとのことです。

●岩手県一関市

山林の所在する地域の支所へメール提出（一関地域は林政推進課、それ以外の地域は各支所産業建設課）。

また、受信確認のため、電話連絡を頂きたいとのことです。

●青森県むつ市

必須条件として、事前に農林畜産課に連絡をする必要があります。提出先のメールアドレスは、連絡をいただいた際にお伝えすることです。

提出後の書類の受理については、まず提出書類の中身を確認し、不備等があれば修正を依頼、なければ受理をするという流れになっているとのことです。

●秋田県大館市

事前に担当者への連絡が必要とのことです。

メールでは、文字化けや通信状況などによって、データをうまく送受信できないことがあります。電話連絡をしてもらうことでそういった欠点をカバーしている自治体が多い印象です。

さらに、福島県福島市や郡山市のホームページによると、ファイル容量の制限はあるものの、市の電子申請（簡易システム）での提出が可能とのことです。

一方で、ホームページから、WordやPDFで提出書類をダウンロードできるものの、提出に関しては窓口・郵送対応のみというところも見受けられます。今後の電子申請の本格稼働を期待しましょう。

**スギ3m用材  
不足しています！**

スギ3m用材が不足しています！出材希望の組合員様は、営業企画部までお問い合わせください

**海岸防災林 サクラ植樹計画**

仙台森林管理署との協定のもと行っている海岸防災林（ノースジャパン100年復興の森）の再生活動において、サクラの植樹を計画しています！





# ちよつと気になる木の話

## 主業優先至上主義では…

—丸太良しを  
考えて欲しいな!—

東北以外の場所から相談があった。薪生産販売業を営む事業者の土場写真が…である。立派なミズナラの丸太が大量に映っている。今、ミズナラは本当に高いが、これを薪にすると言っている。「もったいないよね!」との相談である。

何故、こうなるのか? 薪生産販売しかしていないと、入荷する丸太は、全て薪用になる。丸太良しは、本事業体にとっては、関係のないことなのである。

東北の広葉樹チップ工場でも全く同じである。明らかに高く売れる用材が、チップ丸太工場に混在し、全てチップ化され製紙工場に向かっていく。

もちろん、広葉樹製材工場と併設している広葉樹チップ会社では、キッチリ分別されることとなる。こうし

た状況は、針葉樹のチップ専用工場でも全く同じである。いわゆる主業優先至上主義である。

しかし、本当は納入している素材生産業者に問題がある。銘木用、製材用、薪用、チップ用とキッチリ選別して、納入先工場毎に丸太を分けなくてはならないのである。S材、A材、B材、C材、D材である。もちろん、近くにある工場が優先するのわからないわけではないが、運賃をかけても利益は確実に生じるのである。そのためには、現状のありとあらゆる樹種毎の加工工場のニーズや価格動向の把握が必須である。当組合が主張している川中から川上への情報流の確立が「鍵」である。

極めて優秀なチップ工場の例を見てみよう。入荷する広葉樹丸太で用材になりそうな丸太は、土場で一本一本並べて吟味して「市場へ運び高値で販売」し、用材として不落になった丸太をチップ材の価格で購入し、「帰り荷トラックで運びチップ破碎

しているのである。

広葉樹のチップ用材は、樹種毎に分類して極積み場所を変えて備蓄する。キノコの菌床用として評価の高いブナを一定比率混入する。ヤマザクラの山は、燻製用チップとして専用工場へ納入する等の工夫をしている。これが本来の姿である。

岐阜県の工場では、チップ工場脇に製材機を設置して、板材として別途販売している。本当はこうだよ!!

ここで、もう一つの主業優先至上主義の問題である。

支障木伐採を主業としている土木・造園系だと樹種だけでなく、スギであつても、2m未満でバサバサ切つて、産業廃棄物である。支障木伐採料金が入るからと言って、本来売上計上できるのに丸太は可哀想である。このグループにも、丸太良しを形成する情報流が必要である。

更に、公社造林や公団造林のように造林・育林の森林整備に長年携わってきた人が主流を占める組織では、伐採後の丸太の販売への基礎知識が欠けているといえる。広葉樹の用材

の見方はなく、山元での極積みにはLPだけである。スギであつても全部2mに玉伐りして極積みをして丸太の価値を下げてしまっている。いわば、森林整備優先至上主義ともいえる。

最初に述べた本当の問題点は同じで、請負っている素材生産業者にあると言え、キッチリした造材仕様書を整備して、「指導が必須」である。現地に出向き、節の大きさ・数・目廻り・黒ずみ等の欠点を吟味して、造材仕様書通りにいかいかないかを見極めることが必要である。

色々述べたが、かつては、皆現場・市場で実物を見て学んだのが、納入工場見学等川中の理解が不十分だと思われる。外材主流時代の川上と川中の分断が、今だに再構築されていないのである。

主業はもちろん大事である。しかし、先祖が植えてきた木を正当に社会で活用して欲しい。当組合のローガンである「売り手良し、買い手良し、地域良し、丸太良し」を実現しよう!!

令和6年6月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	12,444	102.2	97.0	13,232	116.5	170.5	25,676	109.1	124.7
カラマツ	6,134	113.0	139.8	446	127.4	135.5	6,580	113.8	139.5
アカマツ	2,138	125.5	94.5	92	86.4	*	2,231	123.2	98.5
その他	0	*	*	136	139.7	94.1	136	139.7	94.1
合計	20,716	107.3	106.3	13,906	116.7	168.9	34,622	110.9	124.9

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	4,705	123.1	89.3
カラマツ	3,014	100.5	95.2
アカマツ	726	47.8	34.0
その他	505	108.1	913.6
合計	8,951	101.6	84.2

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m³)	製材・集成材・その他用 (m³)	計 (m³)	燃料用 (t)
スギ	36,996	35,840	72,836	12,639
カラマツ	16,610	903	17,513	9,050
アカマツ	7,110	773	7,883	4,644
その他	0	383	383	1,580
合計	60,716	37,898	98,614	27,912
目標達成率 (%)	25.3	21.7	23.8	20.7
計画量	240,000	175,000	415,000	135,000

注)\*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和6年6月の需給動向】

- 合板工場の減産も一段と厳しくなり、納入制限が強まる。カラマツの引き合いも弱まる状況。
- 気温も上昇し虫害、青変菌の被害が強まる傾向にあり、各工場では受入制限を強化している。
- 燃料材は不足状況。各工場の納入制限や国有林請負作業も開始され出材が減少した影響。

耳からウロコ

電力会社との思い出

—色々あるが、なるほど…!?—

電力会社との様々な思い出を列記しよう。京都時代、原発からの送電線の路線選定で、某暴力団が山の中に家を作り、立ち退き料を狙っている。路線を変えたいが、この路線だと山主は大きな山林所有者だと思いが、確認して欲しいと。このルートなら、山主は大丈夫ですと回答した。

北海道時代、水力発電のダムに砂利が滞っているで引き上げたい。しかし、周りはずべて国有林なので置かせてもらっていいかと。その代わり、タダなので、砂利もタダで使ってもらいたい。それなら、林道脇の指定場所をお願いした。林道の維持補修費は安くついてウィンウィンであった。同じく、鉄塔の敷地の話がきて、価格の相談に何回か行きたいと。「いえいえ、民間の話がいついたら、その価格で「OK」です。わざわざ何度もおいでただかなくても結構です」と。担当者には大変感謝された。

関東時代、尾瀬沼の自然保護担当から、「長大な遊歩道の板がロシア産カラマツなんだけど国産カラマツに代えられないか？何か虫とか菌とかあったら心配なので。それは無いと思ったが、国産カラマツの利用は、現地にもカラマツ林があってパッチシ！である。尾瀬沼は、半分が国有林で、半分

は電力会社の所有である。かつて古い時代、水力発電所をつくる計画だったと聞いた。その頃、ロシア丸太の中から、原料材ちよつと上クラスを抜いて作っていたと聞いた。そこで、電力会社と交渉して「OK」をもらい、群馬県の業界に発注が出された。毎年一定量の発注があるので、ウィンウィンの出来事だった。

時は流れて、東日本大震災での福島原発事故が起きた。即座に電力会社にお電話した。「原発事故の周りの国有林と尾瀬沼の社有林を等価交換しませんか」だった。この件だけは、だれにも相談せず、尾瀬沼に係した自分としては、キツカケづくりと考えた思い込み行動だった。回答は、「今、それどころではない！」その通りであり、その後、原発問題は拡大・長期化していった。現在でも、等価交換した方が良いのではと思っている。足尾銅山近くの煙害地における超長期の森林復元の治山事業と重なってしまうのである。

電力会社との色々な思い出でした。おつと！今思い出した。神奈川県内の署から、職員を業務第2課の林野庁の土地借り付け担当係長に辞令を出した。当然、電力会社への土地借り付けもだった。赴任後、第一声「学校卒業後、最初に電気事業連合会(通称…電事連)に入社しました。そのことを知っててですか？」えっ！同じ人が貸付額計算と借入額計算？